

京水労ニュース



水循環命と 水がめぐる道

No.13

2026年2月26日

教宣部長 稲田 智己

分断ではなく一体感を生み出す賃上げの継続を！ ～京水労春闘要求書提出～



2026年2月26日、京水労は当局と団体交渉を行い、春闘要求書を提出しました。今回提出した要求書は、春闘要求のために実施したアンケート結果を基に作成し、一票投票により高い賛成率、批准率で信任いただいたものです。改めて、アンケート、一票投票への御協力ありがとうございました。

春闘要求書の提出にあたり、坂本書記長から要求書について趣旨説明し、「今回の要求書が組合員の声

を基に作られたものであることを再認識してほしい。組合員の皆が何に喜びを感じるのか。秋闘の賃上げで、何よりも自分の働きに対する対価が上がることへ皆が喜びを感じていることを肌で感じた。春闘は直接的には我々の賃金に関わってこないが、連合と連携して次の秋闘での賃上げにつながる運動をしていく。今、初任給や若年層の給与の引き上げが、人材獲得のツールとして使われているが、**人材流出の阻止も重要**である。働く喜びを感じられる環境を整える必要がある。**働く人に魅力を感じてもらえる組織を目指したい。**今は職員同士の関係性が希薄となっていて、**人間味のある組織をどう継続していくか。一人ひとりが周りの仲間を気にすることができる環境づくりに、使用者側もしっかりと取り組んでもらいたい。**秋闘での積み残しである、特異性手当、人事評価制度については、各分会さまざまな思いを持っている。より良い制度となるようしっかりと交渉していきたい。(要約)」と発言しました。


吉川管理者からは、「組合員の声をしっかりと受け止めて協議していく。」と発言があり、隼木執行委員長からは、3月19日を山場として交渉に臨む旨を宣告しました。組合員の皆さんも本春闘で、執行部と共に闘っていただくようお願いします。

「2026 春闘方針及び重点要求(案)」の承認、京水労の活動に対する信任投票の結果

投票率	賛成率	批准率
94.99%	96.59%	91.75%

2026年2月26日

京都市公営企業管理者
上下水道局長 吉川 雅則 様

京都市水道労働組合
執行委員長 隼木 

2026年春闘要求書

日夜、水道・下水道事業の円滑な運営に加え、上下水道に働く職員の賃金・労働条件の改善に尽力されている貴職に対し、敬意を表します。

秋闘においては、我々が要求し続けてきた全世代に亘る賃上げがようやく実施されました。今、給与明細や年末調整の明細は、組合員それぞれが人事給与システムから印刷しています。我々執行委員は、それぞれの職場で賃上げが反映された明細を組合員が手にするその瞬間を見届けました。ここ数年は若年層に偏った賃上げが続いていたこともあり、中堅、ベテラン層の組合員には、半ば閉塞感のようなものが漂っていました。それが、昨年末は世代の垣根を超えて、全世代に喜びの表情がありました。もちろん、今年の秋闘での賃上げだけで、長く続けている物価の上昇や組合員が抱える将来への不安に対応できたわけではありません。しかし、そこには間違いなく世代を超えた一体感がありました。ある世代に偏った賃上げにより、「若い世代が・・・」「ベテラン層が・・・」といった世代を分断する雰囲気を生み出すのではなく、全世代が共に喜び合える、これからもそんな雰囲気を生み出すことができる全世代に亘る賃上げを継続して実施しなければなりません。

ベテラン世代の大量退職、さらには民間企業との人材獲得競争の激化により、これから我々にとって苦しい時期がやってきます。京都市民、さらに非常時には自治体の枠組みを取り払い、被災した方や困難な状況にある方々のライフラインを守っていく、そのためにはこれまで以上にスムーズな技術継承を進めていかなければなりません。今春闘に向けたアンケート結果からも、組合員が引き続き技術継承に不安を抱えていることが明らかになっています。組合員の不安を解消するために必要なものは、分断ではなく一体感です。上下水道局が局側も組合側もなく一体となって水道・下水道事業を持続的に運営する、そんな賃金体系や職場環境を共に作っていきましょう。

本日提出する春闘要求書は、アンケートで出された組合員の意見を基に作られたものであり、批准率91.75%（賛成率96.59%）と組合員からの高い支持を得ています。

貴職におかれましては、このことを十分に勘案され、全世代の組合員、さらには京水労を卒業し、それぞれの立場で活躍する元組合員が一体となり、希望と誇りを持って業務を遂行できる労働条件と職場環境の整備のため、本春闘要求について誠意ある回答を強く要請します。

以上

